

# 平成 25 年度調査研究等計画書

事業名	赤潮・貧酸素水塊対策推進事業		
事業年度	平成25~29年	事業費 財 源	711 千円 (一) (国) (諸) 711
			担当者 増養殖環境課 鈴木 怜
<p>【背景・目的】</p> <p>浦ノ内湾では、湾奥で発生した赤潮が湾中央に移動・拡散して大規模赤潮に発達する事例が多く確認されており、これまで行ってきた調査から、湾奥での有害種の監視によって赤潮発生を予察できる可能性が示された。しかし、予察精度はあまり良くなく、精度の向上が不可欠である。また、宿毛湾では、<i>Cochlodinium polykrikoides</i> 赤潮による漁業被害が続いているが、近年になって当該海域に出現し始めた種であるため、データの蓄積が少ない。</p> <p>本事業では、有害赤潮プランクトンの発生状況及び海洋環境を監視するとともに、既存データも含めたデータ解析によって赤潮発生シナリオを構築し、漁業被害軽減に資することを目的とする。</p>			
<p>【事業の概要】</p> <p>有害プランクトン・海洋環境の監視、赤潮発生シナリオの構築及び赤潮予察手法の実証・改良</p>			
<p>【全体計画とこれまでの成果】</p> <p>浦ノ内湾：既存の赤潮予察手法の実証を行うとともに、有害種及び海洋環境を監視し、既存データも含めたデータ解析によって予察精度の向上及び予察手法の改良を図る。</p> <p>宿毛湾：有害種の発生状況及び海洋環境を監視するとともに、既存データも含めたデータ解析によって赤潮発生シナリオの構築を図る。</p>			
<p>【25年度計画】</p> <p>浦ノ内湾</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5点の調査定点を配置し、5月から1月までに計18回程度、プランクトン及び海洋環境（水温、塩分、DO、栄養塩、クロロフィルa）調査を実施する。</li> <li>赤潮発生時には随時プランクトン及び海洋環境（水温・塩分・DO）調査を実施する。</li> <li>(1) 及び (2) で取得したデータおよび既存データ等に基づいて、当該海域における有害赤潮発生と気象条件・海洋環境との関係を解析し、既存の赤潮予察手法の実証、予察精度の向上、予察手法の改良を図る。</li> </ol> <p>宿毛湾</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6点の調査定点を配置し、5月から11月までに計7回、海洋環境（水温、塩分、栄養塩等）のモニタリング調査を実施する。</li> <li>赤潮発生時には随時プランクトン調査及び水温・塩分等の測定を実施する。</li> <li>プランクトン動態及び海洋環境に関するデータの蓄積及び解析を行い、赤潮発生シナリオ及び短期予察について検討する。</li> </ol>			
<p>【成果目標】</p> <p>赤潮発生シナリオの構築及び赤潮予察技術の開発・改良</p>			
<p>【期待される効果】</p> <p>漁業被害の防止・軽減</p>			